

## 地域交通と住民の幸福： 「アマルティア・センの潜在能力」を反映した地域交通システムの評価

佐々木 公明（前客員研究員・尚絅学院大学学長）

### 1．問題の所在

アマルティア・センは、人が所有する財とその特性を用いて人は何をなしえるか（つまり「機能」）を考察しなければ、「福祉」を評価することはできないと主張する。地域交通を評価するときも、そのシステムの「機能」と「機会」をセットで考える「潜在能力アプローチ」が必要である。例えば、立派な自動車道路があっても、高齢者、病人、自動車を保有しない人、運転免許を持たない人たちの幸福度あるいは福祉におよぼす効果はゼロに近い。本研究では、センの潜在能力を反映させるような住民アンケートを基に、住民の幸福の視点から地域交通システムを評価する試みを行う。

### 2．センの「潜在能力」の定式化と測定

同様の問題意識から、家計生産関数を適用した分析はこれまで僅かながら例がある。しかし、それはマクロ的な分析であり、“少数”の交通弱者の厚生は集計値或いは平均値に埋没されてしまう。センの潜在能力アプローチはミクロ的分析でなければならない。本研究では、個人の交通による潜在能力を、住民が諸活動から得られる「満足度」が表すと想定する。なぜならば、個人はその潜在能力によって「真の」満足度が決定されるからである。

### 3．生活行動の満足度の統計的分析と

#### 交通システムの評価

対象地域として、仙台市に隣接した名取市（研究者の大学所在地）と仙台市の鶴ヶ谷地区を選び、買い物行動、通院行動、趣味・交流行動それぞれの満足度と総合生活満足度を住民の潜在能力を表す変数として、統計モデル分析を行った。「65歳以上」「運転免許を保有しない」および「自動車を保有しないあるいは自動車を自由に使えない」それぞれの視点から「交通弱者」と「非交通弱者」のグループに分けた分析を行った。

### 4．結論

現代の地域交通は自動車交通に大きく依存しており、自分で車を運転しなくとも家族等による送迎も重要な役割を担っている。交通弱者（高齢、運転免許無し、自動車を自由に使えない）の潜在能力は有意に低い。結論として、現在の地域公共交通システムが良好なサービスを提供できず、住民生活に必要な日常的交通の基本として当てにされていない。